

# 伊丹市水道事業経営戦略【概要版】

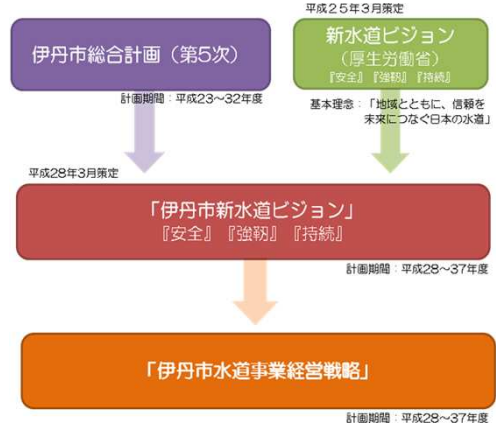
## 第1章 「伊丹市水道事業経営戦略」の策定にあたって

### 1. 策定の趣旨

平成28年3月に策定した伊丹市新水道ビジョンに掲げる基本理念である「未来につなぐ 安全・安心な 伊丹の水道」の実現に向け、中長期的な経営の基本計画である「伊丹市水道事業経営戦略」を策定。

### 2. 「経営戦略」の位置づけ・計画期間

#### 2.1 位置づけ

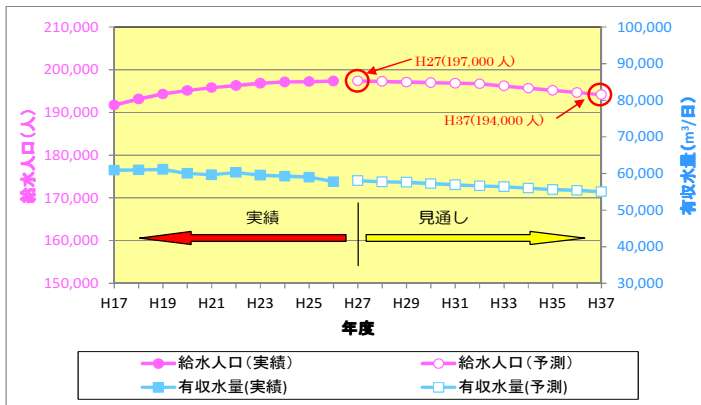


#### 2.2 計画期間

平成28年度～平成37年度（10年間）

## 第2章 現状と課題

### ○ 給水人口・有収水量の推移と見通し



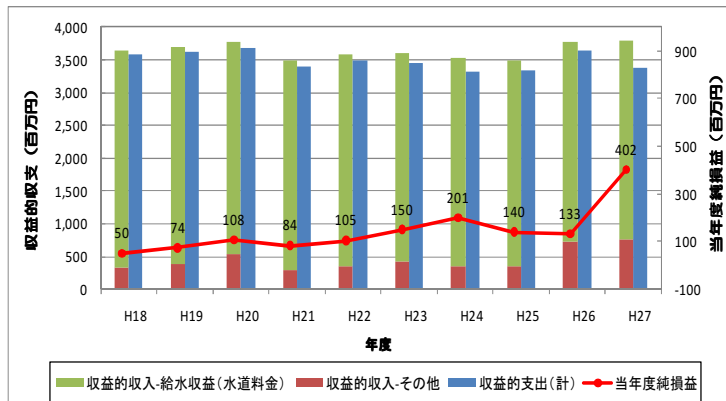
### ○ 水道施設の耐震化

#### ● 施設や管路の耐震化の状況

	平成27年度	備考
千倍浄水場内施設耐震化率	68%	(耐震対策済の施設数) ÷ (施設数) × 100
施設全体(千倍浄水場含む)の耐震化率	53%	
重要路線の耐震適合率	53.5%	(重要路線のうち耐震対策済の配水管延長) ÷ (重要路線の総配水管延長) × 100
管路全体の耐震適合率	28.9%	(耐震対策済の配水管延長) ÷ (総配水管延長) × 100

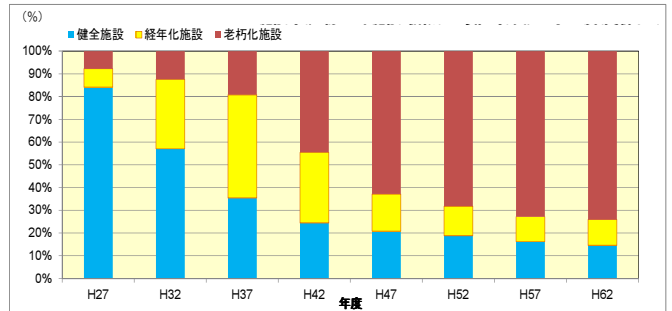
### ○ 経営状況

#### ● 収益的収支及び当年度純損益の推移

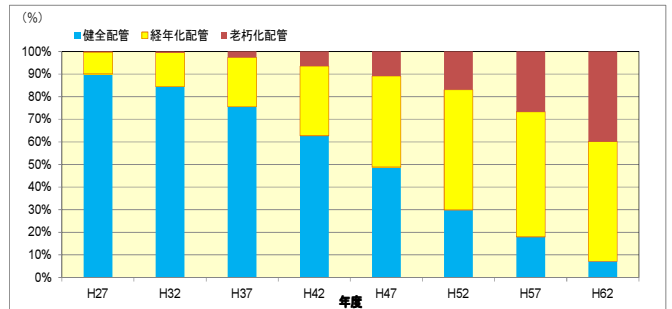


### ○ 水道施設の老朽化

#### ● 施設等(建物・土木施設・機械及び装置等)資産の健全度 (現有資産を更新しなかった場合、金額ベースで算出)



#### ● 管路資産の健全度 (現有資産を更新しなかった場合、金額ベースで算出)



※ 健全: 法定耐用年数未満の資産  
経年化: 法定耐用年数の1.0~1.5倍経過した資産  
老朽化: 法定耐用年数の1.5倍以上経過した資産

#### ● 給水収益(水道料金)の推移

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
給水収益(水道料金) (千円)	3,316,988	3,309,210	3,240,002	3,185,669	3,234,856	3,180,285	3,178,780	3,143,657	3,058,480	3,020,971

### 第3章 経営戦略の基本理念と方向性

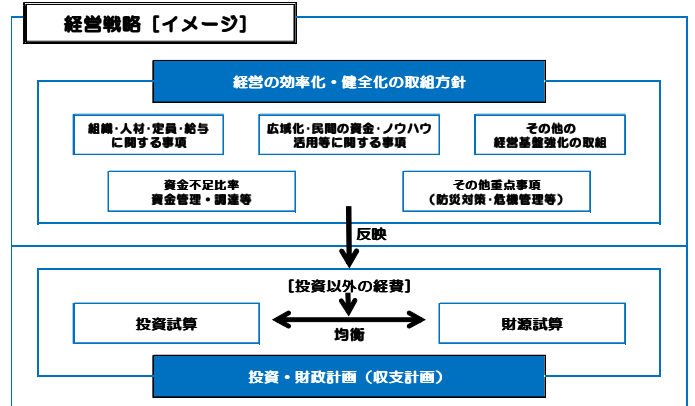
#### 1. 基本理念

「伊丹市新水道ビジョン」に掲げる「安全」「強靱」「持続」の基本目標の達成と持続可能な水道事業の実現



未来につなぐ 安全・安心な 伊丹の水道

#### 2. 方向性



### 第4章 経営の効率化・健全化への取り組み

1. 職員の人材育成・定員管理の適正化 ⇒ 定員管理計画に基づく定員適正化の推進など
2. 広域化の推進 ⇒ 近隣水道事業体との広域化・広域連携の調査・研究など
3. 民間の資金・ノウハウの活用 ⇒ 委託業務の拡大・現行委託業務の再検討など
4. 経営基盤の強化 ⇒ 「経営健全化項目」の継続実施など
5. 資金管理・調達 ⇒ 計画的な企業債の発行など
6. 危機管理体制の強化 ⇒ 「伊丹市上下水道局危機管理計画」の策定など

### 第5章 投資・財政計画（収支計画）

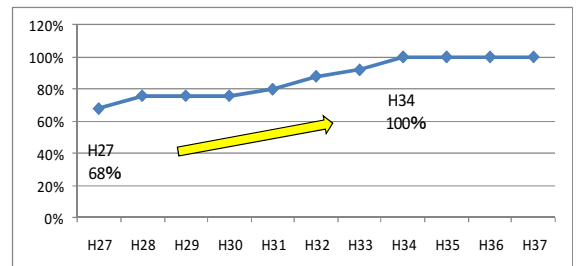
#### 1. 投資試算

##### 1.1 水道施設の耐震化

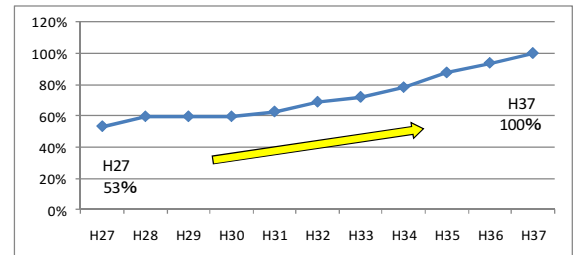
##### ①浄水場等施設の耐震化

	前期 (H28~H32)	後期 (H33~H37)
千僧浄水場	フロック形成池(AB池) 配水池(C池) 1系配水ポンプ井 混和池 急速攪拌池	着水井 汚泥濃縮槽 汚泥貯留槽
北村水源地		取水塔 ポンプ井 接合井 浅井戸 ポンプ棟
武庫川水源地		ポンプ井 取水口 沈砂池
昆陽池貯水施設		ポンプ井 ポンプ棟
瑞ヶ池貯水施設		取水塔
事業費(千円)	667,300	362,500

##### ●千僧浄水場内施設の耐震化率の推移



##### ●施設全体（千僧浄水場含む）の耐震化率の推移

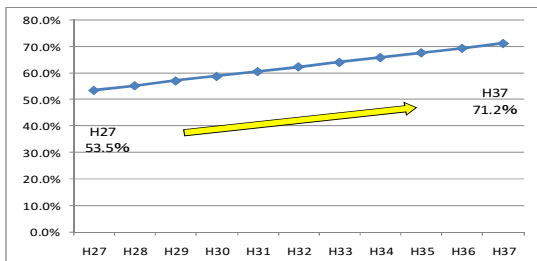


##### ②管路（配水管）の耐震化

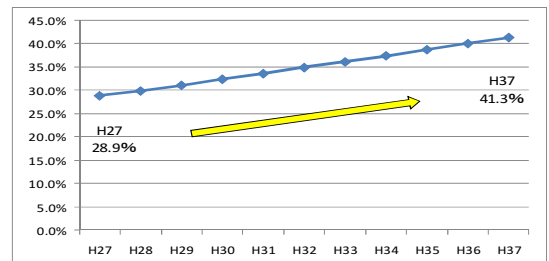
##### ●伊丹市管路耐震化基本計画における重要路線の整備延長

	前期 (H28~H32)	後期 (H33~H37)
重要路線の整備延長	8,693m	8,629m
事業費(千円)	1,154,483	906,620

##### ●重要路線の耐震適合率の推移



##### ●管路（配水管）の耐震適合率の推移



## 1. 2 計画的な施設整備

### ①浄水場等施設の計画的な更新

	前期 (H28~H32)	後期 (H33~H37)
千僧浄水場	着水井 活性炭接触池 混和池 急速攪拌池 水質管理 オゾン処理棟 急速ろ過池 中間ポンプ棟 活性炭処理施設 2系配水ポンプ 中央監視制御装置	掻き寄せ機 排泥ポンプ ろ過池設備 1系2系配水ポンプ オゾン発生機 活性炭処理施設 薬品注入設備 着水井
北村水源地		ポンプ設備 流入、流調弁 除塵機
武庫川水源地		除塵機 ポンプ棟外壁 取水ゲート
昆陽池貯水施設		ポンプ棟改修
瑞ヶ池貯水施設		防水シート
事業費(千円)	1,831,700	2,748,410

### ②管路(配水管)の計画的な更新

	前期 (H28~H32)	後期 (H33~H37)
整備延長	H28 : 年間 6,000m H29以降 : 年間 7,000m	年間 7,000m
事業費(千円)	4,061,030	4,200,000

※伊丹市管路耐震化基本計画における重要路線の整備延長及び事業費を含む

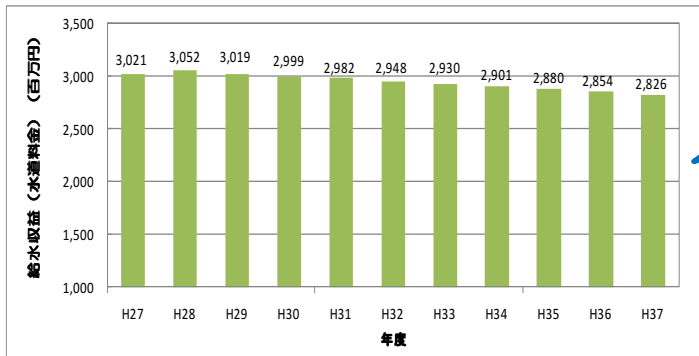
	前期 (H28~H32)	後期 (H33~H37)
管路更新率	H28 : 1.10% (91年周期) H29以降 : 1.28% (78年周期)	1.28% (78年周期)

## 2. 財源試算

### 2. 1 給水収益(水道料金)

平成27年度給水収益(水道料金)は、約30億円。節水機器の普及や企業の効率的な水使用の徹底、給水人口の微減等の影響により、現行の料金体系・料金水準を維持した場合、給水収益(水道料金)は減少の一途をたどり、平成32年度は約29億円、平成37年度には約28億円になる見込み。

#### ●給水収益(水道料金)の見通し

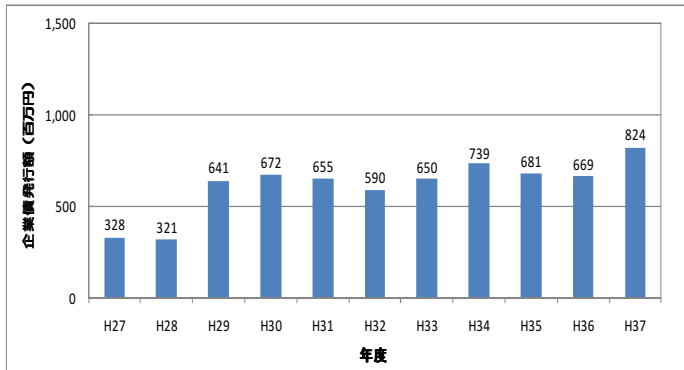


今回の経営戦略では、  
現行の料金体系・料金水準として試算

### 2. 2 企業債

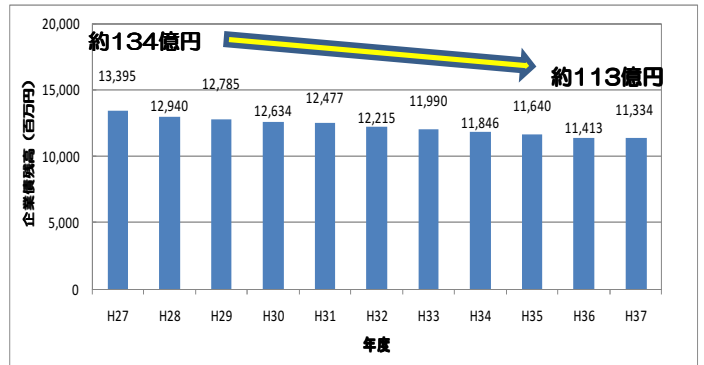
企業債は、計画期間中(平成28年度から平成37年度まで)は、原則、起債対象事業に対する企業債の発行割合を一定の水準(事業費のうち、国庫補助金等の財源を控除した額の50%程度)に抑えるなど、計画的な企業債発行による企業債残高の抑制。

#### ●企業債発行額の見通し



	前期 (H28~H32)	後期 (H33~H37)
企業債発行額(千円)	2,877,400	3,563,300

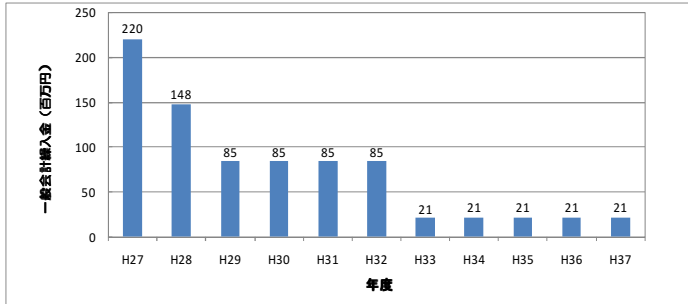
#### ●企業債残高の見通し



※H27年度比 約21億円減(約15.4%減)

## 2.3 一般会計繰入金

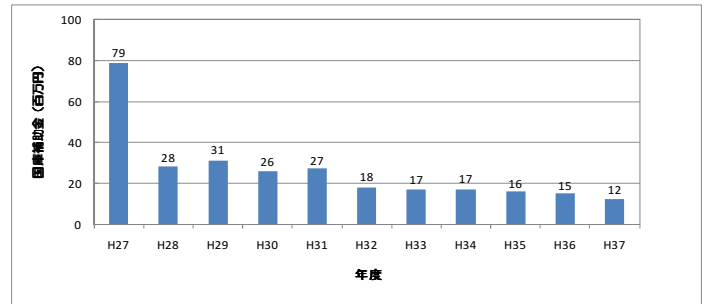
「平成28年度の地方公営企業繰出金について」（総務副大臣通知）に基づく試算。



	前期 (H28~H32)	後期 (H33~H37)
繰入額 (千円)	487,954	105,460

## 2.4 国庫補助金

現行の補助基準（「生活基盤施設耐震化等交付金交付要綱」）をもとに、補助対象事業費の1/4として試算。



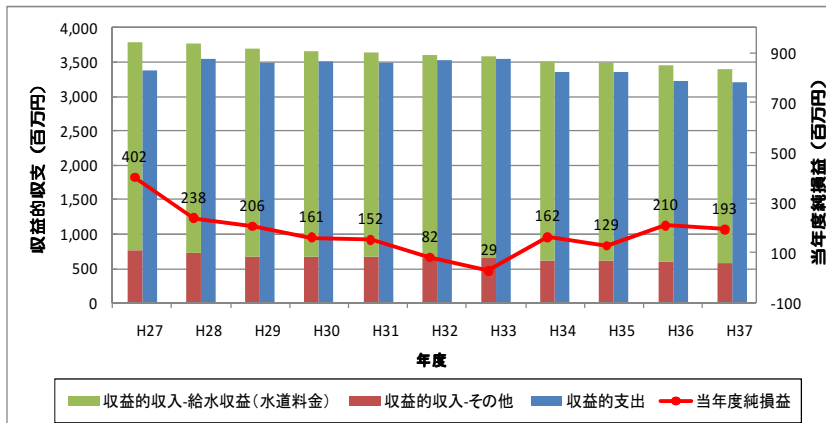
	前期 (H28~H32)	後期 (H33~H37)
国庫補助金 (千円)	129,622	76,716

## 3. 投資・財政計画（収支計画）

### ●収益的収支及び当年度純損益の見通し

○ 計画期間中は、純利益を確保 = 健全経営の維持

- ・ 給水収益（水道料金）の減少や減価償却費の増加により純利益は一時的に減少（→ H33 約2,900万円）

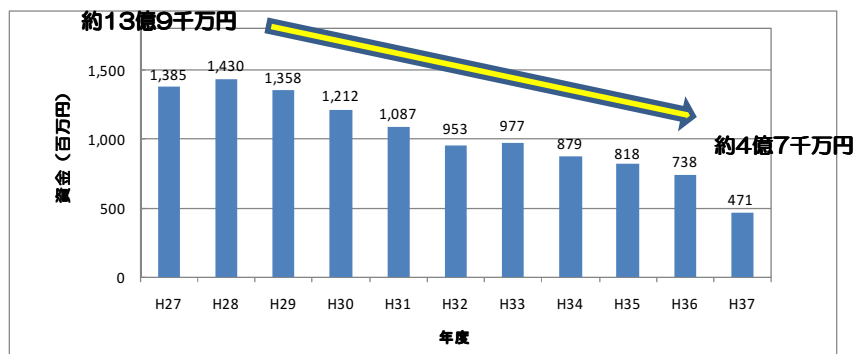


### ●自己資金（補てん財源残高）の見通し

○ 資本的収支の不足額に対する補てん財源として使用可能な自己資金は、将来にわたっての安全安心な水道水の持続的提供に向けた水道施設の耐震化や更新改良の財源として活用することにより、大幅に減少（→ H37 約4億7千万円）

※ 次期計画期間内（H38~H47）には、資金不足の可能性

※ 今回の計画期間内に料金体系や企業債の発行水準の見直しの検討が必要



※自己資金は、資本的収支の不足額に対する補てん財源として使用可能な額としています。